



子ども食堂「ゆり」



子ども向け救命教室の様子



工作活動で作成した作品



担当の島衣里子さん

泉南市社協の Instagram はコチラ



泉南市社協

「n i c c o t」

にこっと

● 泉南市社協

「みんなの居場所づくり」 「n i c c o t」

泉南市社協(以下、社協)は、住民の孤立防止やつながりづくり、参加支援をめぐり、令和4年1月にみんなの居場所づくり「n i c c o t (にこっと)」を開始。コロナ下の外出自粛でストレスを抱えた方に対する支援がきっかけでした。年齢や所属を問わず、多様な人が交流できる「和気あいあいとしたくつろぎの場」を提供したいという思いから実現しました。

泉南市社協(以下、社協)は、住民の孤立防止やつながりづくり、参加支援をめぐり、令和4年1月にみんなの居場所づくり「n i c c o t (にこっと)」を開始。コロナ下の外出自粛でストレスを抱えた方に対する支援がきっかけでした。年齢や所属を問わず、多様な人が交流できる「和気あいあいとしたくつろぎの場」を提供したいという思いから実現しました。

新たなつながりづくり

社協はこれまで、地域住民と一緒に福祉課題を考え、行動することを通してつながりを深めてきました。一方で子育て世帯や若年層などが社

地域住民の声に応えていく居場所

「n i c c o t」を地域全体で育てて

「n i c c o t」を地域全体で育てて

▼左から藤山 叔美さんと島田 丁花さん



四條畷市

「チロル堂」

二十数年間で子どもを取り巻く環境は大きく変化し、子どもたちがありのままの自分で自由に過ごせる時間・場所は減少傾向にあります。こども家庭庁の報告にも「こども・若者が地域コミュニティのなかで育つこと」が困難になっていることがあげられています。

● 四條畷市 一般社団法人あじーる

「楽しい魔法」の駄菓子屋

一般社団法人あじーるは令和4年12月から「まほうのだがしやチロル堂四條畷店」(以下、チロル堂)を営んでいます。チロル堂は、子どもから大人まで誰でも入れる駄菓子屋です。ただし、「楽しい魔法」がかかっています。

チロル堂の仕組み

子どもたちが1回100円の魔法のガチャガチャを引くと、独自の通貨「チロル札」が1〜3つ手に入ります。チロル札を使って駄菓子やおむすびセット、カレーなど100円以上のものと交換し、食べるすることができます。

このチロル札は大人が食事をすることに金額に応じて1〜3チロル札がガチャガチャに寄付される仕組みです。チロル堂ではこのように大人が寄付することを「チロル」と呼んでいます。大人が「チロル」たび、こどもたちが魔法のガチャガチャを引けるようになります(下図参照)。この仕組みは、奈良県生駒市で誕生しました。全国でさまざまな団体が運営母体となり、5か所で実施されています。また、令和4年にはグッドデザ

秘密基地のような場所

チロル堂の周りは広い庭になっており、10人以上の子どもたちが訪れ、ガチャガチャを引き、駄菓子や食事などと交換しています。

「子どもたちが学校以外で集まることのできる、秘密基地」のような場所にした」と話すのは、あじーるの代表の島田丁花さん。島田さんは、生駒市での実践を見て、感銘を受け、任意団体としてこの事業を開始。令和5年8月に一般社団法人あじーるとして事業を継続しています。

チロル堂の Instagram はコチラ



まほうのだがしや チロル堂の仕組み



子どもたちがガチャガチャを引く

大人が食事をする

食事の一部がガチャガチャへ!チロル

開封すると、1〜3チロル札が!!

食事をするこどもたちへの寄付になる!



チロル札は駄菓子や食事と交換できる



地域みんなで子どもたちを育てる意識をもつことにつながる!



チロル堂の周りでも遊ぶことができる!